

岸外務副大臣の環インド洋連合（I O R A）首脳会合におけるスピーチ （概要）

- 本年のI O R A設立20周年に祝意。今般、インドネシアが議長国としてリーダーシップを発揮し、本会合をホストされたことを高く評価。自由で開かれた環インド洋、インド太平洋地域は全加盟国にとっての共通の利益。地域の発展に向け、自由、民主主義、法の支配などの共通の価値、ルールを基礎とし、具体的な協力を促進していくことが重要。
- 日本は「自由で開かれたインド太平洋戦略」を推進。その根底をなす考え方は、自由で開かれた海洋秩序こそ、国際社会の平和と繁栄をもたらすかけがえのない礎であるということ。安倍政権は、視野をアジア太平洋からインド洋を経て中東や東アフリカまで広げ、インド太平洋の自由で開かれた海洋秩序を確保することにより、この広大な地域全体の安定と発展を支えていきたいと考えている。
- 具体的には、①航行の自由、法の支配など基本的価値の普及と定着、②港湾、鉄道などのインフラ整備を通じた連結性強化、経済連携の強化、ビジネス環境整備などによる経済的繁栄の追求、③海洋法執行能力の向上支援、海賊対策、テロ対策、防災などを含む安全保障上の協力を進めていく。
- こうした協力を、I O R A加盟国とも緊密に連携しながら進めていきたい。法の支配に基づく自由で開かれたインド太平洋地域の実現のため、地域の連結性を高め、点や線ではなく「面」としての協力を推進し、貿易・投資を活性化させ、地域の潜在力を最大限発揮することが重要。
- A S E A Nは今や世界の工場となった東アジアの生産力拡大の中心。インドは12億の人口と高い成長で、市場拡大の牽引役。これらの成長セクターをつなげるスリランカやバングラデシュのインフラ開発も重要。
- I O R Aの中で、特に大きな潜在力を持つのがアフリカ。日本は、大陸への窓口となるケニア、モザンビーク、マダガスカルといったインド洋沿岸国の港湾への質の高いインフラ開発を通じたアフリカの発展、そしてアジア・アフリカ間の連結性の向上に貢献。次期議長国である南アフリカには多くの日本企業が進出している。I O R A事務局が所在するモーリシャスにも本年日本国大使館を設置。
- 防災分野などのソフト面でも協力は進展。日インドネシア間で昨年11月にはバンダ・アチェで、12月にはジャカルタで、「世界津波の日」普及啓発イベントを開催した。我が国はI O R A加盟国も多く含む世界の次世代のリーダーを日本に招待し「世界津波の日高校生サミット」を開催するなど、将来に向けた人材育成や国際社会への発信も行っている。
- I O R Aは今後、加盟国間の対話・協力の場として益々重要な役割を果たすものと確信しており、日本も積極的に協力を行っていく。新たな20年に向け各国と引き続き連携していきたい。